

学びや

ヨイムスワツプ

の歴史はまだ浅く、早いところは1930年代、遅いところだと戦後の1950年代以降に使われるようになりまし

た。そこでは、ノートと筆記用具が普及するまでは、家庭での学習は今ほど「当たり前」なことではなく、「書く」ことによる勉強はもっぱら学校で行うことだった。一方、この頃、粘板岩の薄片に木製の枠をつけた「石盤」に、ろう石を加工した「石筆」で文字を書くというスタイルが西洋からもたらされ、国内の粘板岩の生産量が

先日まで、各地で卒業式が行われていました。桜の季節になり、今度は入学式が始まります。小学校の入学式といえば、初々しいランドセル姿の新入生が目につかびますね。

先日まで、各地で卒業式が行われていました。桜の季節になり、今度は入学式が始まります。小学校の入学式といえば、初々しいランドセル姿の新入生が目につかびますね。

ランドセルの中には、教科書やノート、筆記用具、下敷きなど、家庭学習での必需品が入っています。

江戸時代のいわゆる「寺子屋」は、師匠が弟

実は、このランドセル

小学校の就学率に一役

明治時代になり各地に小学校が創設されると、就学率が上がります。半紙は高価なので、小学校では児童全員に使わせることが難しくなりました。一方、この頃、粘板岩の薄片に木製の枠をつけた「石盤」に、ろう石を加工した「石筆」で文字を書くというスタイルが西洋からもたらされ、国内の粘板岩の生産量が

97(同30)年ころから次第に用いられなくなり、筆と紙が再び主流となりました。鉛筆とノートが普及し始めるのは、このおよそ30年後、昭和初期の1920年代後半のことでした。



「石盤」「石筆」は学

校歴史博物館(下京区)

の常設展示室で実物が見

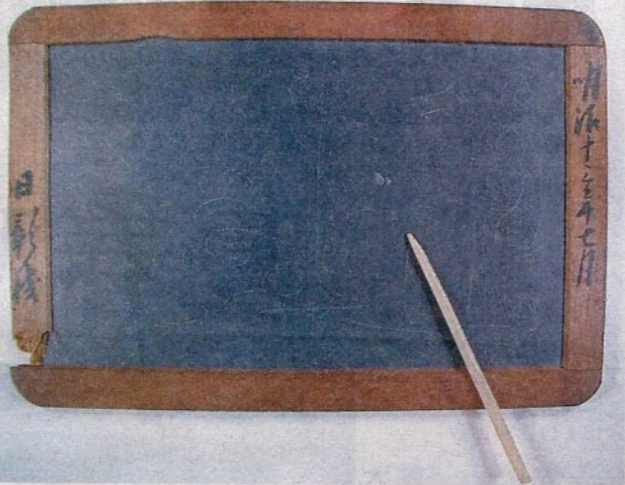
られます。レプリカ(子

どもでも安全な素材で作

製されています)を体験

するコーナーもあります

(水曜休館)。



「石盤と石筆」(写真①)、「石盤箱」(同②)
=1880年、日彰校(中京区、現高倉校)



(京都市学校歴史博物館
学芸員 和崎光太郎)